

# 「甚吉邸建設に関わった主な人物」

施主

渡辺甚吉 1906～1972

わたなべ じんきち 14th JINKICHI WATANABE



1906年(明治39年)岐阜県生まれ。渡辺家は中部地方を代表する名家で、甚吉氏も一六銀行取締役、岐阜放送社長、東海テレビ放送取締役など多くの会社の重役に就任した。1947年には参議院議員選挙に出馬。当選して参議院議員を一期務めた。岐阜薬科大学の創設資金を全額寄付するなど、地元にも貢献している。 [画像提供：岐阜薬科大学]

実施設計

遠藤健三 1898～1992

えんどう けんぞう KENZO ENDO



1898年(明治31年)岐阜県生まれ。建設請負業を営む家の長男。高校卒業後に上京し、早稲田大学付属早稲田工手学校の建築科に入学し卒業。大学の先輩である山本拙郎に誘われ住宅会社のあめりか屋に入社後、九州での請負業を経て故郷の岐阜に戻り、エンド建築工務所を設立。大日本土木の初代社長も務めている。 [画像提供：大日本土木]

全体計画

山本拙郎 1890～1944

やまもと せつろう SETSURO YAMAMOTO

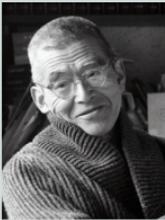


1890年(明治23年)高知県生まれ。キリスト教を信仰する家庭で育つ。旧制第三高等学校を卒業後、早稲田大学理工科建築学科に進学。卒業後はあめりか屋に就職し、技師長を務めたほか同社の宣伝誌「住宅」の編集・執筆にも取り組んだ。1928年には同社の2代目社長に就任。1944年、仕事で渡った上海で死去する。 [画像提供：親族]

細部装飾・インテリア

今和次郎 1888～1973

こん わじろう WAJIRO KON



1888年(明治21年)青森県生まれ。東京美術学校(現・東京芸術大学美術学部)を卒業後、早稲田大学建築学科の助手となり、後に教授となる。建築学のみならず民俗学などの研究者としても知られており、いわゆる考現学の提唱者でもある。なお建築やデザイン分野での実作は非常に少なく、幻のデザイナーとも呼ばれている。 [画像提供：筑摩書房]

## 欧州見聞

岐阜・銀行家渡辺家の14代目 岐阜出身・建築家

渡辺甚吉 遠藤健三

欧州見聞後に

渡辺甚吉の結婚新居の私邸として建設

全体計画 山本拙郎(あめりか屋技師長)

チューダー様式で設計 細部装飾・インテリア

遠藤健三 今和次郎

以後

スリランカ駐日大使公邸

結婚式場

移築プロジェクト



## 旧渡辺甚吉邸概要 ※竣工当時のデータ

旧所在地：東京市芝区白金三光町273番地

現・東京都港区白金台4-19-10

設計：遠藤健三/山本拙郎/今和次郎

施工：エンド建築工務所工事部

構造：木造地上3階・塔屋、RC造地下1階

規模：延床面積603.9㎡/敷地面積1133.2㎡

規模内訳：地下48.8㎡/1階300.8㎡

/2階186.8㎡/3階21.5㎡

/塔屋12.9㎡/ガレージ33.1㎡

起工日：昭和8(1933)年6月13日

竣工日：昭和9(1934)年12月12日